

# BAT Study and Conservation REPORT

## コウモリ通信 Vol.4 No.1 1996.5

Chiroptera



### 各地からの報告

那須のコウモリ

安井 さち子

戸隠森林植物園コウモリ調査報告

三笠 暁子

熱帯雨林に到着して30分。最初に出会った哺乳類がこいつらだった

神谷 有二

ヤマコウモリの死体をひろった

落合 けいこ

バードバンディング中に混獲されたコウモリ2種

作山 宗樹

コウモリと夏のビール

中田 利夫

なぞの声 続報

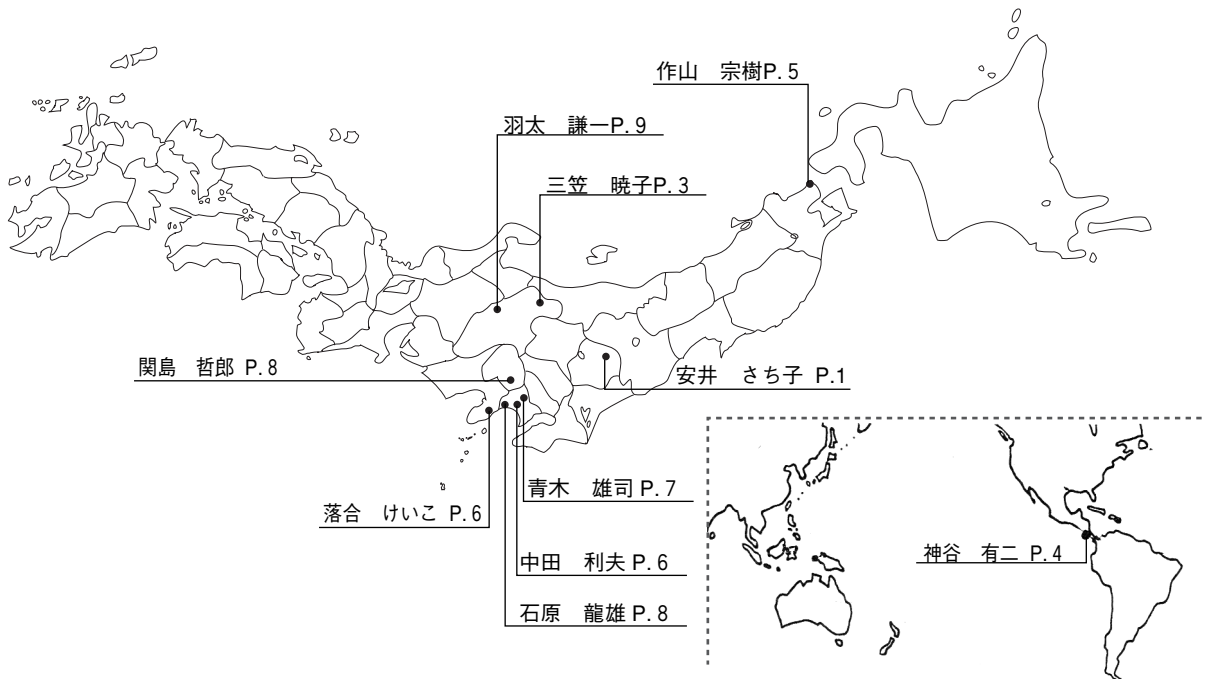
青木 雄司・関島哲郎・石原 龍雄

羽太 謙一・編集部

### インフォメーション



もくじ



各地からの報告

### 那須のコウモリ

安井 さち子

現在、栃木県立博物館の自然総合調査と栃木県の自然環境調査の一環として、栃木県那須地方のコウモリ類の分布調査を行っています。昨年からはじめ、2年目に突入しました。

那須というと、茶臼岳などの火山か高原を思い浮かべる方が多いと思いますが、私たち（コウモリの会の今関、佐藤氏ら）が主に調査しているのは、いわゆる裏那須と呼ばれる、西方の自然の多く残っている地域です。那須には昔につくられたずい道（農業用水を通すためのトンネル）が多くあるの



□

□

□

□

□  
□



## 【これからの調査の課題】

この他、なぜか明け方にだけ気付く樹冠上をひらひらと飛ぶコウモリ（アブラコウモリに似ている）や、秋になると聞こえるなぞの声（コウモリ通信 Vol.3 No.1 1995.6 三笠氏文参照）など、まだまだ正体のわからないコウモリがいます。どうやって調べたらいいのかわからない、いいアイデアをお持ちの方はぜひ教えてください。かすみ網を使っただけの分布調査は何にも捕まらない日が多いので（経験不足もありますが）、期間の限られる県の調査などではわずかしら調べないうちに終わってしまうのが悩みです。捕獲できるコウモリの個体数はそう多くないけれど、種類を確認すると同時に、松村先生の提案（コウモリ通信Vol.1, No.3-4, 1993.12）のようにバットディテクタで声も録音するようにしています。でも使えそうなのはまだない。私もバットディテクタで簡単に種類がわかるといいなと思っているひとりです。

（やすい・さちこ 栃木県立博物館自然課）

## 戸隠森林植物園コウモリ調査報告

三笠 暁子

### 戸隠森林植物園内のコウモリ類調査（捕獲許可No.190）

1995年9月7～8日（7日は下見のみ）

- 参加者 コウモリの会メンバーなど以下7名  
前田、三笠、水野、赤沢、橋本、峰岸、藤原
- 調査地 長野県上水内郡戸隠村森林植物園  
広さ71.41ヘクタール  
標高1200-1250m  
気温-8.3℃～29.0℃ 平均10.8℃  
年間降雨量1461mm

### 【研究の目的と方法】

1993年7月と1994年8月、長野県上水内郡戸隠村森林植物園において、バットディテクタ（以下BDに

略します）によるコウモリ類の生息調査を行った。その結果、3～4箇所でコウモリの飛翔を確認できたが、捕獲をしなかったため、種の同定にはいたらなかった。

その後、森林植物園およびその周辺における哺乳類相について文献を調べてみたところ、コウモリ類についてのみ、ほとんど報告例がないことがわかった。

戸隠森林植物園とその周辺は、ほぼ原生林に近い自然林で、ブナ・ミズナラの大木をはじめ、遷移段階の異なるいろいろな林が存在する貴重な場所である。このような場所のコウモリ相を調べることは、コウモリ相とその生息環境についてを考察する上で大変重要と思われる。

今回の調査は、前田喜四雄氏（奈良教育大学）にご協力いただき、かすみ網で捕獲した後、前田氏立ちあいの下に正確な同定を行い、外部計測や繁殖状態、捕獲時の状況などを記録したのち再び放した。

### 【結果】

1995年9月7日 晴れ（月夜）気温14℃

20：09～22：40 BDによる下見調査

21：23 奥社参道で45-70kHz プツプツバット（BDでプツプツという音が確認できるコウモリのこと。以下同）を確認

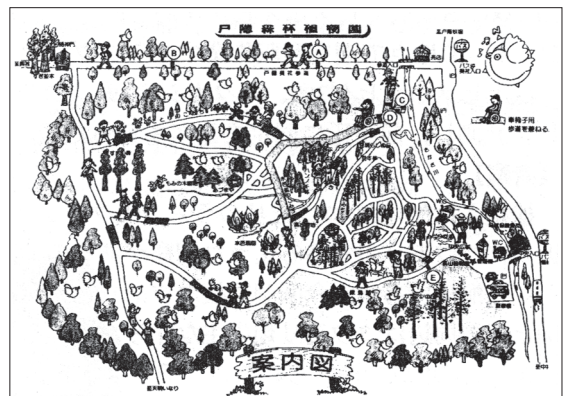
21：39 随神門付近で45kHz プツプツバットを確認

22：20 みどりが池 水面上を40-60kHzで飛ぶプツプツバットを確認

22：35 越水ロッジ横の街灯上空で20kHz以下のピュッピバットを確認

1993年7月に行った調査の時より音の確認数が非常に少なかった。時期の違いも影響していると思われる。なお、奥社参道とみどりが池水面は2年前に、ほぼ同じ場所で同じような音が確認されている。

越水ロッジ横の街灯では1994年8月、羽太氏（ナチュラリストクラブ）が夜8時半頃、街灯の下（高さ約3m）を25kHzの音を出しながら飛ぶコウモリを目視している。大きさはヤマコウモリより小さめだっ



戸隠村森林植物園案内図

たということで、飛び方と大きさからいってヤマコウモリ以外の「25kHzコウモリ」ではないかと思われるが、今回は残念ながら確認できなかった。

1995年9月8日 晴れのち曇り（満月、のち霧発生） 気温10℃ 日没時刻17時58分

13：30—15：30 調査地下見

16：00—18：30 かすみ網を5箇所<sup>1</sup>に設置

かすみ網設置場所（p.3地図参照）

A 奥社参道

B //

C 参道入口から入口広場までの道

D 小鳥の小道入口

E みどりが池西南の探鳥路入口

18：50 B地点でヒメホオヒゲ♀ygを捕獲 地上高約3m

19：10 A地点でヒメホオヒゲ♀adを捕獲 地上高約1m

19：10 C地点で網にかかるが逃げられる 地上高約2m

19：30 D地点でキクガシラコウモリ♀adを捕獲 地上高約1m

20：00 B地点でヒメホオヒゲ♀adを確認 地上高約1.5m

21：40 D地点で網を回収作業中コテングコウモリ♂ad捕獲 地上高約1.5m

以上ヒメホオヒゲ3頭、キクガシラ1頭、コテング1頭の計3種5頭を確認した。各個体は前腕長と下腿長を計測し、前田氏に同定をしてもらった後、放獣した。

#### 【考察】

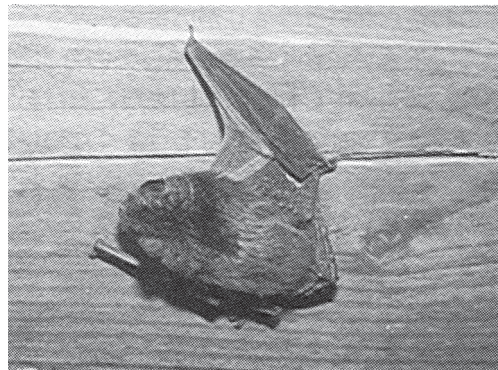
捕獲された3種のコウモリのうち、キクガシラコウモリはほぼ一年中洞窟にすむ（例外もある）ため、近くにコウモリのすめるような洞窟があるのではないかと思われる。また、コテングコウモリはほとんどが樹洞棲である。今回洞窟棲コウモリと樹洞棲コウモリの両方が捕獲されたことより、戸隠森林植物園とその周辺はコウモリ類の主なすみかである洞窟と樹洞のどちらも備えた環境であると考えられる。

また、C地点で逃げられたコウモリは水野氏（コウモリの会）によるとヒメホオヒゲより大きく、キクガシラよりは小さいコウモリだったということで、捕獲された3種以外の種である可能性もある。また、1994年に羽太氏が観察した25kHzの中型コウモリも未確認のまま終わった。

このようなことから、今後の調査ではさらに多くの種が見つかる可能性も考えられる。

今回最も多く捕獲されたヒメホオヒゲコウモリは、前田氏によると中部山岳地帯の原生林の残る森林で、よく見られる種類であるという。ヒメホオヒゲは3個体とも参道にかけたかすみ網の地上約1~3mのところにかかった。1993年7月に観察した参道の地上約2mのところを同じ場所を直線的に行ったり来たりして採餌していたコウモリとは、バットディテクタの音も一致しており、おそらくヒメホオヒゲコウモリではないかと思われる。

（みかさ・あきこ ナチュラリストクラブ）



捕獲されたヒメホオヒゲコウモリ

## 熱帯雨林に到着して15分。最初に出会った哺乳類がこいつらだった

神谷 有二

特別コウモリに強い興味があったわけではないのだけど、北へ南へ東へ西へ、森やら、動物やらを見にいくと、いろんな場所でコウモリに出会っている。このコウモリもそんな中の1種類。

コスタリカに熱帯雨林を見にいったときのこと。セスナをチャーターしてまで行った国立公園は結構スゴイところだった。その国立公園の名はコルコバド国立公園。自然の多く残るコスタリカのなかでも、もっとも多様性に富んだ熱帯雨林が残っているところのひとつだ。面積は約55,000ヘクタール。太平洋に面しており、低地性のいわゆる熱帯雨林から山地性の雲霧林まで状態よく保護されている。

とにかく、一番近い村からセスナに乗ること約20分。熱帯雨林のど真ん中にぼつんと建つレンジャーステーションに着いた。早速、レンジャーと挨拶をかわし、一通り国立公園での注意事項などの説明を受けた（スペイン語だったのでほとんどわかっていなかったが…）。それから寝る場所に案内されて驚いた。なんとそこは“壁のない天井裏”。つまり屋根はあるんだけど壁はなくて、寝床から熱帯雨林丸見

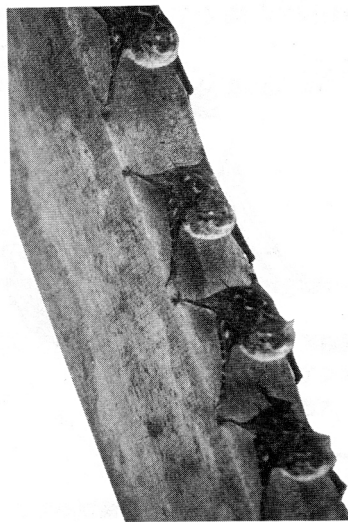
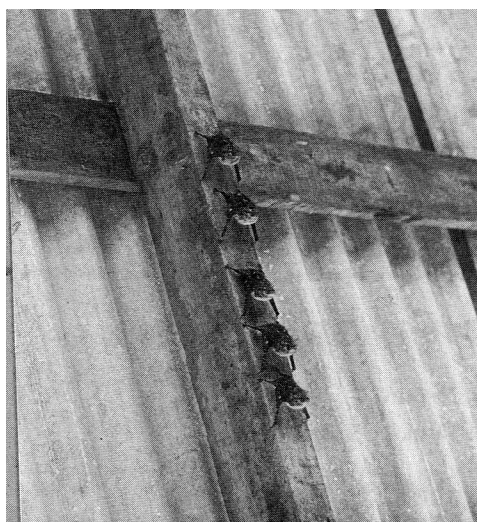
えという、なんかとんでもないところだった。もちろん、ちゃんとした部屋を期待していたわけではないのだけど…。

今にして思うと本当に良いところだったのだが、その時はこれからはじまる一週間の「ひとりで熱帯雨林三昧」という計画に期待3割、不安7割で、「ウン、こんなトコで1週間過ごすのか・・・」と一人用の蚊帳を天井から張りながら、途方に暮れていた。そんなとき、ふと見上げるとこのコウモリが仲良く7匹連なって、梁にへばりついていて、なんか毛がフサフサしていて、シマシマ模様のかわいいヤツだ。日本で見かけるようなコウモリとは違って、なんか根拠もなく熱帯雨林っぽい。熱帯雨林に着いてほんの15分ぐらいでもう哺乳類に出会った僕は、「ヨシヨシ…、さすがは熱帯雨林！」などとほくそ笑みつつ、さっきまでの7割の不安が10割の期待にかわっていることに気がついた。

結局そのコウモリ達は、僕が滞在していた1週間ずっと梁にへばりついていて、ある日は一本の梁に7匹連なって、またある日はこっちに3匹あっちに4匹と、並び方はさまざま。そのレンジャーステーションは、毎晩夜8時まで明かりがついており、彼らはそこに集まってきた虫を食べていた。電気が消えると、たぶんまわりの熱帯雨林にエサを探しに行くのだろう。（かみや・ゆうじ 山と溪谷社出版部）

神谷さんが観察したコウモリの種類を奈良教育大学の前田喜四雄氏に問い合わせたところ、小コウモリ亜目サシオコウモリ科 (Emballonuridae) のヒメシマサシオコウモリ (*Saccopteryx leptura*、英名; Two-lined bat) であることがわかりました。

サシオコウモリ科は、英名がSheath-Tailed Bat (さや状のしっぽをもったコウモリ) で、尾膜を自由に伸び縮みさせることができるのが特徴です。食虫性で、キクガシラコウモリのような鼻葉はありません。ヒメシマサシオコウモリ属は、メキシコ南部からペルー、ブラジルにかけて分布し、下の写真のように柱や幹に各自が一定の間隔をもって休息します。体の模様は保護色と考えられているようです。（編集部）



コスタリカで出会った  
ヒメシマサシオコウモリ

## 青森県でバードバンディング中に混獲されたコウモリ2種

作山 宗樹

コウモリ通信 (VOL.3, No.1) に掲載された橋本氏の「バードバンディングにおけるコウモリの混獲」を読みました。バードバンディング中に混獲されるコウモリのデータが活かされるためにも、コウモリ研究者の方々との交流の必要を強く感じました。私も個人的な調査として4年前より青森と岩手で鳥類の標識調査を行っています。コウモリに関してはほぼ素人ですが、今まで2回、バードバンディング中にコウモリを捕まえたことがあります。ささやかですが、データは以下の通りです。

### 1. コキクガシラコウモリ (写真)

年月日：1993年9月11日（時間はおよそ22：00前後）

場所：青森県東津軽郡三厩村竜飛岬